

「しろくま忍者の手あらいソング」とは

食中毒、感染症の予防と食育の推進のため、子どもの頃から正しい手洗いの方法を身につけてもらおうと、“しろくま忍者の手あらいソング”が制作されました。作詞・作曲・振り付けを担当したのは、札幌市保健所の食品衛生監視員と札幌市子ども未来局の保育士・栄養士です。

主人公は、円山動物園にいる“しろくま忍者”です。しろくま（ホッキョクグマ）が選ばれたのは、しろくまの赤ちゃんのかわいらしい姿が、市民のみなさんに親しみがあると考えられたからです。円山動物園では、飼育下での繁殖が難しいと言われる中、2003年以降数頭の赤ちゃんが誕生し、他の動物園に巣立っています。

しろくま忍者は、バイキン忍者を“手洗い忍法”でやっつけます。手洗い忍法には、汚れやバイキンが残りやすいポイントを網羅した、食品衛生監視員の監修による正しい手洗い方法が盛り込まれています。

その後、しろくま忍者は任務の後のきれいな手で、札幌でとれた野菜を食べます。歌詞にある“チサンチショー”は地産地消のことで、地域で生産されたものをその地域で消費しようという活動です。札幌では、農産物の地産地消の拡大を目指すための産地表示制度として“さっぽろとれたてっこ制度”を設けています。スーパーや直売所では札幌産の目印となるように「さっぽろとれたてっこマーク」を幟（のぼり）やステッカー等にて表示しています。歌詞にある玉葱、南瓜、ブロッコリー、小松菜、レタス、とうきび等、いろいろな農産物が生産されています。



さっぽろとれたてっこマーク

“しろくま忍者の手あらいソング”では、歌と踊りで手洗いの手順を楽しく覚えられます。また、うがいの方法も盛り込まれていて、インフルエンザをはじめとする感染症の予防にも役立ちます。札幌市では、この手洗いソングを活用して、食中毒・感染症の予防と食育の推進のため、正しい手洗いの普及・啓発を広く行なっていきます。

